

## 2016年度学生アルバイト（Liss）業務報告書

情報メディアセンター

情報メディアセンターでは、前年度に引き続き2016年度においても図書館学生アルバイトスタッフ（Liss : Library student staff）を雇用し、業務や活動を行いましたので、下記の通り報告いたします。

### 1. 在籍 Liss 一覧

- 4年・・・5名（経営経済学部3名、ビジネス創造学部2名）
- 3年・・・4名（経営経済学部2名、ビジネス創造学部2名）
- 2年・・・4名（経営経済学部1名、ビジネス創造学部3名）
- 1年・・・7名（経営経済学部2名、ビジネス創造学部5名） 計20名

### 2. 業務内容

- カウンター業務  
資料の貸出及び返却処理、利用者からの簡単な質疑への対応（レファレンス）
- 書架関連業務  
資料の返本・配架、雑誌や新聞の移動・廃棄、蔵書点検、書架整理
- データ整備  
レファレンス記録のデータ入力、ブログ閲覧数記録、業務マニュアルの更新
- 企画・広報関連業務  
図書の特集コーナーの設置、教職員インタビュー、SNSを活用した業務報告と宣伝
- その他の業務  
図書の装備（ブックフィルムかけ）、業務シフトの作成

### 3. 2016年度スケジュール一覧

4月	新入生クラブナビゲーションへの参加（Liss業務説明）、IMC合同花見 教職員インタビュー記事（岡本先生）発行
5月	Liss業務説明会開催
6月	学長インタビュー実施、新人Liss研修開始、IMC合同新人歓迎会

7月	第1回学長インタビュー記事発行
8月	東京家政大学ヒアリング対応
9月	IMC 合同合宿、選書ツアー開催、ビブリオバトル開催、第2回学長インタビュー記事発行
10月	Liss 業務説明会開催
11月	新人Liss 研修開始、第3回学長インタビュー記事発行 教職員インタビュー記事（酒井先生）発行
12月	IMC 合同新人歓迎会、古本市開催、大掃除
1月	HRC 主催確定申告講座への参加
2月	蔵書点検、IMC 合同送別会、ブログにてカウンセリング室へのインタビュー記事の連載 教職員インタビュー記事（飯野先生）発行
3月	Liss 内での業務改善の開始、図書館紹介動画の撮影

#### 4. 2016 年度特別企画

- 古本市

12月13日～15日の3日間、ヘルプデスク内で古本市を開催した。教職員や学外の方から不要な本を回収し、一冊100円で販売した。3日間の売り上げ冊数は34冊となり、目標としていた50冊の売り上げを達成することはできなかった。しかし、内訳を見てみると、1日目は8冊、2日目は5冊、3日目は21冊となっており、3日目に大幅に売り上げを伸ばしていた。その理由として、2日目からの熱心な宣伝活動や手描きPOPによるディスプレイが挙げられる。売り上げ目標は達成できなかったものの、販売のコツはつかむことができたため、今後実施する際には売り上げを伸ばしていきたい。なお、古本市の売上金でポケットティッシュを購入し、図書館の広告を入れて新入生歓迎会や館内で配布するなど、利用者に還元できるような形をとった。

#### 5. 広報活動・他大学ヒアリング対応

- 図書館紹介動画の撮影

今までにLissが作成した図書館紹介動画は、大学公式YouTubeチャンネルにアップロードされている。最新版は2015年度のもので、主にラーニングコモンズの紹介に重点を置いて撮影を行った。しかし、「ナレーションが聞き取りづらい」「図書館がどこにあるのかわかりづらい」などの意見があったため、新たに撮影を行った。作成した動画は大学公式YouTubeチャンネルにアップロードされる予定である。

- 館内掲示物の作成やブログでの利用サービス紹介

図書館の利用サービスについて、新たに掲示物を設置した。特に力を入れて作成したものは、返却期限日一覧の看板である。これをカウンターに設置したことにより、どの身分の利用者でも、ひと目で返却期限日を把握できるようになった。また、ブログでは利用サービスの認知度を上げるために、館内設備の紹介で連載を行った。

- 教職員インタビュー

教職員にインタビューを行い、それを記事にして掲示することで少しでも図書館に興味を持ってもらうという狙いのもと、2013年度より発行を開始した。教職員の方におすすめの本を必ず聞き、その本を展示した特集コーナーを設置することで、学生が図書館に足を運ぶきっかけづくりをしている。2016年度は、学長インタビューの実施や発行回数の増加を行い、少しでも多くの人の目に留まるように努めた。

- 東京家政大学ヒアリング対応

8月24日に、東京家政大学図書館の職員とインターン学生が、学生共働の事例研究として本学図書館に来訪された。学生アルバイトの活動についてのプレゼンテーションや学内の施設案内をLissが行い、職員とともに対応した。この経験は他大学との交流の大切さを知るきっかけにもなり、また、これまでのLissの活動を振り返る良い機会となった。

## 6. 業務改善

- 業務マニュアルの見直し

Googleサイトを使ってLissの業務マニュアルを管理しているが、2016年度の時点で情報が古くなっていった。そこで、内容を見直し、地道に最新の情報に更新していくことで、新人Liss研修の際に業務説明がしやすくなり、作業手順が曖昧なときにも見直せるようになった。また、月に1回行われるLiss会の議事録を載せることで、過去の活動を振り返りやすくなり、今後の活動方針やミーティングの議題などの確認作業がスムーズにできるようになった。

- ToDoリストの作成

Lissは基本的にカウンターでの1人勤務のため、Liss会以外で各自の業務の進捗状況を把握しづらいう問題があった。そこで、リーダー業務として毎月のToDoリストの作成を追加し、カウンターのPC付近に貼っておくことで、目に見える形で各自の業務の進捗状況を把握できるようになった。これによって効率的に仕事を割り振れ、優先順位の明確化が容易になり、各自の作業効率が上がった。

## 7. 2016年度の反省と来年度に向けて

2016年度は「図書館のサービスを知ってもらう」という目標を掲げ、広報活動に力を入れた。特に教職員インタビューでは、前年度よりも発行回数を増やし、記事を学内に掲示するだけでなく、情報メディアセンター公式Webサイトへの掲載、おすすめされた本で特集コーナーを設置するなどの工夫を凝らし、利用者が図書館に興味を持ってもらえるようなきっかけづくりに力を入れた。館内では利用案内の掲示物を増やし、ブログでは館内設備や利用サービスの紹介を連載するなどして、利用者にサービスを知ってもらうことに努めた。しかし、前年度と比較しても来館者数などに特に変化はなく、サービスを知ってもらうことはできたとしても、より多くの利用者に使ってもらえるまでには至らなかったといえる。そこで、2017年度の活動目標を「嘉悦ならではのサービスを充実させる」とし、新しいサービスを打ち出そうと方向転換をした。新しいサービスを考えるにあたって、公共図書館や他大学の図書館へ見学に赴き、様々なサービスを参考にすることで嘉悦流にアレンジをする予定である。他大学に見学へ行くという企画は、東京家政大学図書館の方との交流で得た経験が大きく、2016年度の活動が来年度に活かされているといえる。今後も図書館をより良いものにするために、Lissで一丸となって努力していきたい。